

国の文化財の指定について

令和7年6月20日に開催された国の文化審議会において、下記の文化財を史跡に指定するよう、文部科学大臣に答申がなされた。

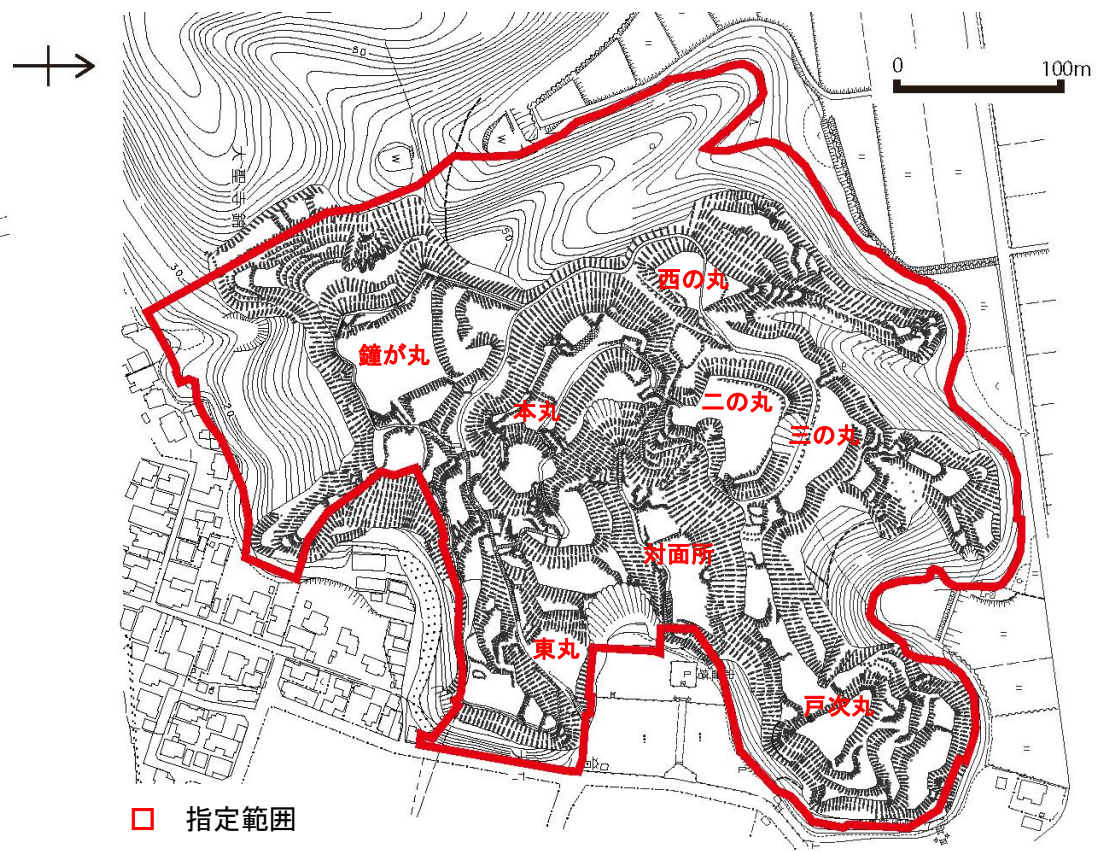
- 1 名 称
大聖寺城跡
- 2 種 別
史跡（国指定）
- 3 所在地
加賀市大聖寺地方町古城山1番1 ほか
- 4 面 積
126,935.11m²
- 5 時 代
戦国時代～江戸時代初期
- 6 所有者
加賀市、個人
- 7 概 要

大聖寺城跡は加賀市大聖寺の市街地西方に位置する。戦国時代には加賀一向一揆の拠点の一つであり、越前朝倉氏の侵攻に際しては度々占拠された。天正3年（1575）以降は織田・豊臣両氏が支配し、同11年（1583）には丹羽長秀の配下である溝口秀勝が、慶長3年（1598）には小早川秀秋の配下である山口玄蕃宗永が城主となった。同5年（1600）に前田利長に攻められ落城した後、元和元年（1615）の一国一城令で廃城になっている。

江戸時代に作製された大聖寺城の絵図には、本丸や二の丸、三の丸といった曲輪（くるわ）や道等が描かれており、加賀市がこれまでに実施した調査の結果と概ね一致し、遺構が良好に保存されていることが裏付けられている。戦国時代の加賀国の政治状況の変化を知る上で重要であり、価値が高い。



大聖寺城跡 位置図



大聖寺城跡 配置図



大聖寺城跡 航空写真



大聖寺城跡 本丸